

(平成28年 2月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	2月の総入荷量は、前年に比べると加工水産物は順調な入荷があったが、鮮魚は漁獲の低調な魚種が多かったため入荷が減少したことや、冷凍魚も原材料の減少や、需要の低下により入荷が減少したことから、全体として7%の減少となった。価格については、鮮魚が入荷減少により値上がりし、冷凍魚、加工水産物も原材料の減少等の影響で値上がりした結果、水産物全般の取扱金額は前年同月と比べ4%上回った。
(区 分 別 の 動 向) 鮮 魚	2月の鮮魚の総入荷量は、前年同月と比べ12%下回ったことから、平均単価は16%上回った。 品目別には、するめいかは入荷が77%下回り、価格は44%上回った。さば、びんちょうは入荷が半減となり、価格はそれぞれ25%、13%上回った。一方で、まあじは入荷が72%上回り、価格は12%下回った。また、まいわし、ひらめについては、1割前後の入荷の増加があったものの、他の魚種が減少して値上がりする魚が多かったことから、価格は前年並となった。 3月には、子持ちいいだこが旬を迎え、ほたるいか、いかなごも漁期入りとなる。また冬の味覚のずわいがに(オス)は3月20日をもって終漁となる。
冷 凍 魚	2月の冷凍魚の総入荷量は、前年同月と比べ7%下回ったことから、平均単価は10%上回った。 品目別には、冷えびは前年同月は高値から需要が大きく低下していたが、前年の秋にかけて徐々に値下がりしたことにより需要が回復して、2月も好調な荷動きとなった。価格が1割程度上がった冷あかうお、冷あかえびは入荷が減少となった。 3月は、3月の決算期を控え、国内の在庫品を中心とした販売が見込まれ、値動きは少ないと思われるが、冷えびは値上げの気配である。

加 工 水 産 物	2月の加工水産物の総入荷量は、前年同月と比べ3%上回ったが、加工原材料が全般に値上がり傾向にあることから、平均単価は3%上回った。 品目別には、塩さばは原料となる大型サイズの漁獲が少ないことから入荷が17%減少して、価格は13%の値上がりとなり、丸干ししゃもは、前年より49%値上がりして入荷は22%減少した。また、丸干いわし、ちりめん、ゆでたこ等は10%前後入荷を伸ばしたことから、価格は若干値下がりした。 3月には、ほたるいかの漁が始まり、浜ゆで製品の入荷が始まる。漁期は2か月程度で終わり、丸々太って少し高価な富山産、買いやすい価格の兵庫産と好みに応じてお勧めする一品である。
-----------	--

※生鮮魚：鮮魚，貝類，淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	愛媛，徳島で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ７２％上回ったため，価格は１２％下回った。
ま い わ し	三重，千葉で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ９％上回ったため，価格は２％下回った。
さ ば	静岡，三重で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ４６％下回ったため，価格は２５％上回った。
す る め い か	長崎，富山で水揚げされたものの主体の入荷で，漁獲不振により入荷量は前年同月と比べ７７％下回ったため，価格は４４％上回った。
太 物	入荷量はきはだまぐろは前年並みであったが，本まぐろが８％，めばちまぐろが２５％の入荷減少となり，総入荷量は前年同月と比べ６％下回ったため，価格は１１％上回った。
よ こ わ	長崎，千葉で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ１８５％上回ったため，価格は２９％下回った。
ぶ り	鹿児島，長崎で水揚げされたものの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ１２％下回ったため，価格は３％上回った。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	入荷量はノルウェー産が３４％の増加となったことから，国内産の減少を補い，全体では前年同月と比べ２０％上回った。価格は主体のノルウェー産の値下がりから，前年を１１％下回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ１４％上回ったが，２年続けて漁獲が低調となり，今後の品不足が予想されるため，価格は７％上回った。
(加工水産物主要品目)	
塩 さ け	総入荷量は前年同月と比べ，チリ産塩銀さけが入荷数量を増やしたことから，全体で１０％上回ったが，価格は国産，ロシア産塩紅さけの値上がりもあり，平均すると前年並であった。

すけそうこ	ロシア，アメリカ産主体の入荷で，漁獲が順調であったことから，入荷量は前年同月と比べ１３％上回ったが，堅調な需要があり，価格は前年並みであった。
-------	---